

2011年4月8日発行

Vol.55

ろ ん ど

長崎県音楽連盟事務局

〒850-0056 長崎市恵美須町4-5

NBC第3ビル2F

Tel.&Fax095-820-1081

ホームページアドレス <http://www.n-rond.jp>メールアドレス nma@onyx.dti.ne.jp

「マタイ受難曲」J.S. バッハ自筆譜ファクシミリより（VEB DEUTSCHER VERLAG FÜR MUSIK LEIPZIG）

千年に一度と言われる天変地異の大災害、多くの方々の命を一瞬にして奪った大自然の猛威に言葉を失います。東日本の大震災で尊い命を奪われた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、地震、津波、原発事故と度重なる災害に遭われ、日々の生活にご苦勞なされている方々の厳しい現実に心よりのお見舞いを申し上げます。

この度の未曾有の大災害の中で私どもは戸惑いを隠せませんが、長崎県音楽連盟の会員は日常の生活の中でできるだけの支援をしながら、やはり音楽の持つ力を信じ、益々研鑽に励みながら音楽活動を続けなければならないと思います。自らの音楽活動とその表現を振り返り、その内容が理屈抜きに人々の頭と心に触れ、心身を開放し、今共に生きている喜び、存在感を味わえるものになっているか否か、と顧みることが求められていると考えます。

「もし世界が100人の村であつたら～」という想定での様々な事柄がインターネット上で語られ始めたのはもう10数年前からだったと思いますが、音楽の喜びを知

り、それを楽しむことができる人は100人中一人か、もしくは1000人中の一人ではないでしょうか。その中の一人であることは実に幸せなことです。そのことへの感謝の気持ちを持って、音楽人は常に「その音楽そのもの」「その文化そのもの」として、それを聴く人々の心身に語りかけ、共感を高め合い、創造していくことが求められているのではないのでしょうか。聴く人々の心がいつの間にかワクワクしたり、ウキウキしたり、ハッとしたり、ホーッとすることができる表現者となることが自分自身の使命であり、誇りでしょう。音楽人としての社会的存在価値はそのような歩みの中で確かめられ、高まってくると考えます。

また、長崎県音楽連盟の中の音楽人として、率直に互いの音楽への感想を述べ合い、前向きに批判することがもっと多くなればと願います。また、そのような歩みの中で「ほんものの批評」ができる人が育っていくことも期待しています。（長崎県音楽連盟理事長 松川暢男）